

別記様式第2号（第8条関係）

事業計画書

【事業計画（全体）】

行政区（等）名	ロビンシティ矢板行政区
事業主体	ロビンシティ矢板行政区
事業名	広域連携によるカラス被害の撲滅
地域の課題（現況）	<p>最近ロビンシティ住民よりカラス被害の苦情が年々増加している。問題となっているのは、早朝のカラス鳴き声による安眠妨害が最も多く中でも赤ちゃんへの安眠妨害は悲劇を招いている。加え、洗濯物、家屋へのフン落下は、衛生上にも問題で日々住民を悩ませている。</p> <p>また、カラスのゴミ荒らし対策で高額なゴミステーションを設置しているにも関わらず、ゴミステーションの隙間から狙うゴミ荒らしは依然後を絶たず、加え、家庭菜園の農作物被害も目立ち出した。</p> <p>ロビンシティの立地環境は、東、南側が森に囲まれ、西側は矢板市街に面している。この環境からカラスはロビンシティの森を住み家としここを起点に活動するパターンが形成されている模様。</p>
事業の目的	<p>野性鳥獣管理専門家との共同取組みにより、カラス追放に向けた抜本的対策をロビンシティ矢板行政区内で打出し、これをモデルケースとし各矢板市行政区に水平展開させ、矢板市カラス被害の低減を図る。</p>
事業の内容（事業の先駆性、矢板市総合戦略の基本目標に関する事項を含む。）	<p>カラス被害は、農作物への食害以外にも騒音やゴミ荒らし、フン落下など金額的に表せられない生活被害も多発し日々住民を苦しめている。然しながら、これに対しカラスという知的鳥類で効果的な対策が打てずに半ば放置状態となっているのが実態である。そこでこのカラス被害対策を野生鳥獣管理の専門家を入れ、高度なカラス追放策を編み出し、この策を各行政区に横展開させ、矢板市からカラス被害を一掃させる取組みである。</p> <p>当事業は、カラス生理・生態調査に優位な立地環境にあるロビンシティに拠点を置き、ロビンシティ矢板行政区の傘下にミニプロジェクト「からす追放Gメン」を編成、専門機関から指導を受け、カラスの生理・生態の徹底調査/分析を行い、このデーターをベースにカラス追放対策を独自開発し、この対策をシステムとし確立させ、このシステムを矢板市各行政区に水平展開させ、矢板市よりカラス被害を低減させる。</p> <p>住民主導で広域的にカラス被害の撲滅取組は、過去に類を見ない先駆</p>

	<p>性の高い取り組みである。なお、カラスの生理・生態を熟知した専門家と共同することで、科学的根拠に基づいた実態調査・分析からの効果的対策を行うことで、全国の市区町村のモデルとなる先駆的かつ実現性の高い事業の展開となる。</p> <p>野生鳥獣対策は長期的かつ持続的な取り組みが必要となる。交付金の支援期間は、カラスの研究者を有するベンチャー企業から有償のコンサルティングを受け、さらには共同で対策法を検討することで、民間協同の形で事業に取り組む。交付金の支援終了後は、ベンチャー企業が開発する製品のモニター試験に協力することで、製品の無償提供やコンサルティングを受け、支援終了後も自走できる事業としての展開を目指す。</p>
事業の効果	<p>このように地域が抱える鳥獣被害の課題に対し、専門家の力を借りた上で、住民が主体的に取り組むことは、住みやすいまちづくりに貢献するだけでなく、矢板市総合戦略の基本目標の④<u>活力と魅力あるまちをつくる</u>に合致する取り組みとなる。</p> <p>また、本取り組みは、上述のように、応募要件の①自立性（交付金の支援期間終了後も自走できる体制を整えている）、②民間協同（カラス対策を専門とするベンチャー企業との協同の体制を整えている）、③地域間連携（複数の行政区が連携して本事業に取り組む）の要件を満たしている。この他、カラス被害の軽減は、騒音やゴミ荒らしなどの生活被害の改善に繋がり、環境政策にも貢献できる他、農作物被害の改善は、農業政策への貢献も期待でき、④政策間連携の要件とも合致し、応募要件の全てを満たす取り組みであるとなる。</p>

(別紙資料参照)

【事業計画（年次）】(別紙資料参照)

	事業費（概算）	事業内容
30年度(初年度)	372千円	カラス被害実態とカラス生理・生態調査
31年度(翌年度)	420千円	専門機関とのカラス追放策共同検討
32年度(翌々年度)	246千円	カラス追放対策実施
33年度	6千円	
合計	1044千円	

(注) 翌年度以降の事業費も記入いただきますが、交付金が担保されるわけではありません。

【交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）】

KPI①の内容	カラス被害の報告件数				
KPI②の内容	カラス被害調査への参加世帯数率				
KPI③の内容	カラス被害監視体制への参加世帯数率				
	事業開始前 (現時点)	30年度増加分 (1年目)	31年度増加分 (2年目)	32年度増加分 (3年目)	KPI増加 の合計
KPI①	100件	0件	-40件	10件	-50件
KPI②	0人	5人	25人	20人	50人
KPI③	3%	13%	30%	50%	96%

※重要業績評価指標（KPI）は、矢板市総合戦略の基本目標に整合的で、本交付金を活用した取組によって得られる成果・効果を客観的に示す「事業のアウトカム指標」であること。

■カラス対策事業資金計画

1. 収支

(単位:千円)

	科 目	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度 平成32年度	2021年度 平成33年度	合 計
収 支	交付金	346	414	240	0	1,000
	ロビンシティ矢板	26	6	6	6	44
	合 計	372	420	246	6	1,044

2. 支出

(単位:千円)

	科 目	2018年度 (平成30年度)		2019年度 (平成31年度)		2020年度 平成32年度		2021年度 平成33年度	合 計	
		金額	見積	金額	見積	金額	見積	金額		
支 出	交付金対象	被害調査	専門化によるコンサルタント	150	001	50	005	50	008	250
			撮影機材レンタル料	30	002	30	006	30	009	90
			記録メディア	18	003					18
	対策	専門化によるコンサルタント	50	001	150	005	150	008	350	
		スピーカ	28	003	84	003			112	
		センサースピーカ	60	004	90	007			150	
		対策機材のレンタル料	10		10		10		30	
		小 計	346		414		240		1,000	
	区 出 資	諸費用	ノートパソコン/記録媒体	10						
			事務用品	1		1		1		1
双眼鏡			10							
出張費			5		5		5		5	
			26		6		6		6	44
	合 計	372		420		246		6	1,044	

年 度	項 目	単価(千円)	個数	合計(千円)	見積書No.	
2018	①被害実態調査費用	専門家によるコンサル	150	1	150	001
		撮影機材のレンタル	30	1	30	002
		記録メディア	2	9	18	003
	②対策費用	専門家によるコンサル	50	1	50	001
		スピーカー	28	1	28	003
		センサースピーカー	30	2	60	005
対策機材のレンタル		10	1	10		
2019	①被害実態調査費用	専門家によるコンサル	50	1	50	005
		撮影機材のレンタル	30	1	30	
	②対策費用	専門家によるコンサル	150	1	150	005
		スピーカー	28	3	84	
		センサースピーカー	30	3	90	005
		対策機材のレンタル	10	1	10	
2020	①被害実態調査費用	専門家によるコンサル	50	1	50	008
		撮影機材のレンタル	30	1	30	009
	②対策費用	専門家によるコンサル	150	1	150	008
		対策機材のレンタル	10	1	10	
	合 計	838	30	1000		